

「鉄道地震工学研究センター 第9回 アニュアルミーティング」を開催しました

2022年12月13日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）では、2014年度より鉄道地震工学研究センターの活動を紹介し、研究開発や情報配信について意見交換する場として、アニュアルミーティングを開催しています。本年は12月7日にWeb形式で開催し、鉄道事業者をはじめ官公庁、大学および一般企業から154名に参加頂きましたのでお知らせします。

【ミーティングの概要】

鉄道総研ではこれまで、地震に対する安全性を向上させるため、早期地震検知や耐震補強、地震被害推定情報配信などの技術開発と情報配信を進めてきました。一方、近年では様々な分野でDXの進展が目覚ましく、それに伴ってデータ利活用の重要性が高まっています。このような背景のもと、鉄道地震工学に関連する技術開発においても、データの有効活用に対する要求はますます高まっていくものと考えられます。

本年のミーティングでは、「データ連携による地震レジリエンスのさらなる向上」をテーマとし、産学官それぞれが保有している地震情報、地盤情報など様々なデータの重要性、およびその有効活用する方法について認識を共有するとともに、データ連携の効果と今後の研究の方向性について討議を行いました。

はじめに、鉄道地震工学研究センター長が開会の挨拶を述べ、その後データ連携に関連した基調講演として、神戸大学 都市安全研究センター 教授 飯塚敦様から「都市デジタルツインがもたらす防災減災パラダイムシフト」と題したご講演をいただきました。

次に第1部として、鉄道総研 鉄道地震工学研究センターから最新の研究開発の成果3件について報告を行いました。続いて第2部では、「データ連携による地震レジリエンスのさらなる向上」として、実際にデータを積極的に利活用している機関および鉄道総研から、データ利活用に関する4件の話題提供を行いました。その後パネルディスカッションを行い、データ連携の重要性を再認識するとともに、その実施に向けたプラットフォームの必要性など、現在のデータ利活用にとどまらない次のステップに向けた意識の共有を図りました。

最後に、鉄道地震工学研究センター長が、データ連携の推進に向けて継続的な情報共有を行うこと、およびそのための仕組みや体系の実現について引き続き検討していくことを述べて、閉会しました。



基調講演「都市デジタルツインがもたらす防災減災パラダイムシフト」



パネルディスカッション「データ連携による地震レジリエンスの向上」

1. 開催日時：2022年12月7日（水） 14時00分から17時00分
2. 開催形式：Web形式
3. プログラム

■開催挨拶

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長

小島 謙一

■基調講演

「都市デジタルツインがもたらす防災減災パラダイムシフト」

神戸大学 都市安全研究センター 教授

飯塚 敦 様

■第1部 鉄道地震工学研究センターの最新の研究開発

「震源近傍域の即時警報を目的としたP波規定値超過手法の開発」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震解析研究室 主任研究員

津野 靖士

「定常化を考慮した地盤の液状化挙動評価」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室 研究員

山本 昌徳

「中規模地震を考慮した鉄道構造物の復旧性照査法」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室 副主任研究員

和田 一範

■第2部 データ連携による地震レジリエンスの向上

(1)趣旨説明

(前掲)

小島 謙一

(2)話題提供

「建設に関する利活用」

(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 設計部 担当部長

山東 徹生 様

「防災や維持管理に関するデータ利活用」

東日本旅客鉄道(株) JR東日本研究開発センター 防災研究所 主幹研究員

加藤 健二 様

「防災における観測データ利活用の現状」

(国研) 防災科学技術研究所 地震津波火山ネットワークセンター長

青井 真 様

「鉄道地震工学研究センターにおけるデータ利活用」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室 研究室長

井澤 淳

(3)リアルタイムアンケート

(4)パネルディスカッション

パネラー： 飯塚 敦 様、山東 徹生 様、加藤 健二 様、青井 真 様
小島 謙一、坂井 公俊

モデレータ： 岩田 直泰

■閉会挨拶

(前掲)

小島 謙一